

2023年度 第1回 亀田医療技術専門学校 教育課程編成委員会議事録

日時：令和5年6月26日（月） 15：00～16：30

場所：亀田医療技術専門学校 2号館3階 301教室

出席者

教育課程編成委員

- ・ 亀田総合病院看護管理部副部長 安田 友恵
- ・ 千葉県看護協会安房地区部会役員 栗田 みよ子

専門学校教職員

- ・ 学校長 大塚 伊佐夫
- ・ 副学校長 鴫田 猛
- ・ 統括教育主任 吉田 広美
- ・ 看護学科教育主任 関根 恵子
- ・ 看護学科教育副主任 新井 淳子

欠席者

- ・ 鴨川市市民福祉部長 鈴木 克己
- ・ 事務長 松下 泰久

敬称略

司会：鴫田副学校長 書記：片桐

委員会次第

1. 開会、資料確認

鴫田副学校長が司会を務め、資料1～4の有無を確認。

2. 出席者の確認（資料1）

一覧をもとに出席者の確認を行った。牛村隆一氏の鴨川市健康福祉部長退官に伴い、現福祉部長の鈴木克己氏が就任、任期は2024年3月31日までとする。また本校において今年度より統括教育主任の職が設置され、今回から吉田広美統括主任も参加していくこととなった。

3. 大塚学校長挨拶

「本校では定員を埋めることに苦勞しております。教育課程を工夫していくことも難しい点があるかと思いますが、知恵を絞ってより良い看護師を輩出したいと考えています。活発な意見をお願いします」と挨拶した。

4. 新カリキュラムにおける主な新科目に関する教授状況について（資料2・3）

本校の教育理念、教育目的、看護学科の3つのポリシーについて確認。※資料2

昨年度から実動した新カリキュラムの新科目の教授活動について現況を報告。その中でも基礎分野の「環境学」「宗教学」専門分野の「地域・在宅看護論Ⅰ、Ⅱ」について、コア目標、科目目標、履修内容、授業構成、授業評価（18項目のうち5項目）、授業に対する要望、問題、課題など報告を行った。※資料3

#### ① 環境学（1年次5月履修 15時間）

コア目標：人間を統合された存在として全人的にとらえる。

##### 授業評価

###### ・講義に対して

▶講義の目的と内容の結びつき 当てはまる 56%/どちらともいえない 20%/当てはまらない 24% ▶今後役立つと思われる内容 当てはまる 50%/どちらともいえない 32%/当てはまらない 18% ▶考えさせられる問題提起 当てはまる 50%/どちらともいえない 34%/当てはまらない 16% ▶看護の仕事には重要である 当てはまる 42%/どちらともいえない 34%/当てはまらない 24% ▶講義内容は難しかった 当てはまる 70%/どちらともいえない 22%/当てはまらない 8%

###### ・授業に対する要望

「内容が分かりやすかった」「興味深い内容で楽しい授業でした」「看護師として環境学がどのような活かせるのか結びつきが理解できません」「声が聞き取りづらい」

###### ・科目履修後の調査アンケート

①受講前に環境学で学ぶ内容をどのように思い浮かべていたか②環境学の授業を受けて、印象に残っている内容は何か③学んだ内容を日々の暮らしに、どのように役立てているか、の3点について行った。結果として、地球温暖化や海面上昇、環境破壊などを学び、ごみの分別やリサイクルなどに意識を向ける、自身が実際に行っていることなどをあらためて考える機会となった。

また環境学の学習が看護にどのように結びつくのか、教員に説明して欲しいとの意見もあった。

###### ・「環境学」の履修を通して

暮らしの快適さを維持・確保する整備は、人々の生活に重大な影響をおよぼす地球環境への意識と注意（関心）をもつきっかけとなることがわかり、人間以外の全ての生物に重大な影響をもたらすことを知り、暮らしに活かす動機づけとなった。

「講義が難しい」との声が多くあったが履修時期が1年次の5月であり、集中講義でもあるため履修内容の結びつきを看護ケアに膨らまして捉えたり、人びとの健康促進や看護の仕事に重要であると捉えるまでには及ばない。

問題 講義内容が難しい、学習の目的と履修内容の結びつき

課題 科目目標と履修内容を学生自身が結びつけられるような内容にする。外部と内部環境との相互作用の関係性を説明する。看護の概念枠組み（人間・環境・健康・看護）の特性と関連の説明をする。これらを課題として次年度につなげていきたいと考える。

#### ② 「宗教学」（1年次9～10月履修 15時間）

コア目標：人間の生命の尊厳と個々の人格を尊重し、あらゆる人々の幸福へ貢献できるような感性を磨く。

## 授業評価

### ・講義に対して

▶講義の目的と内容の結びつき 当てはまる 77%/どちらともいえない 19%/当てはまらない 4% ▶今後役立つと思われる内容 当てはまる 77%/どちらともいえない 23%/当てはまらない 0% ▶考えさせられる問題提起 当てはまる 77%/どちらともいえない 16%/当てはまらない 7% ▶看護の仕事には重要である 当てはまる 74%/どちらともいえない 19%/当てはまらない 7% ▶講義内容は難しかった 当てはまる 65%/どちらともいえない 26%/当てはまらない 9%

### ・授業に対する要望

「それぞれの宗教の概要がわかった」「宗教がどのように信仰されているのかがわかったが、それがなんだという状態で終わってしまった」「亀田病院は外国人の患者さまもいるようなので実際の体験談などを知りたかった」

### ・「宗教学」の履修を通して

人間の尊厳、生と死における宗教の意味と本質について講義、グループワーク、レポート（DVD鑑賞後）などによって学びを深めていった。

## ◆ 地域・在宅看護論

学習目的：地域で生活する個人・家族を看護の対象として、生活の基盤である「地域」を理解し、自分の望む健康や暮らしを支援するための基礎的能力を養う。

### ③ 地域・在宅看護論Ⅰ（1年次4～5月履修 15時間）

授業構成：第1～5回は講義および学びに沿ったグループワーク/第6回は仮想事例に沿ったグループワーク/第7回は発表

## 授業評価

### ・講義に対して（R4年度・R5年度）

▶講義の目的と内容の結びつき 当てはまる 99・97%/どちらともいえない 1・3%/当てはまらない 0・0% ▶今後役立つと思われる内容 当てはまる 94・97%/どちらともいえない 6・3%/当てはまらない 0・0% ▶考えさせられる問題提起 当てはまる 85・87%/どちらともいえない 11・13%/当てはまらない 4・0% ▶看護の仕事には重要である 当てはまる 96・96%/どちらともいえない 4・4%/当てはまらない 0・0% ▶講義内容は難しかった 当てはまる 25・38%/どちらともいえない 51・21%/当てはまらない 24・41%

令和5年に度編成した授業構成の事柄は、暮らす人々の尊厳と尊重を踏まえ、生活文化的要素を考えさせるよう組み入れて教授を行った。グループワークは良い状況下のなかで行うことができた。

生活文化的要素を踏まえた地域で暮らす人々の理解は、認定試験の問いの1つとして取り入れ、回答を通して測っていく。

### ④ 地域・在宅看護論Ⅱ（1年次6～10月履修 15時間）

授業構成：第1～4回は講義/第5回はグループワーク/第6～7回はフィールドワーク/第8回はフィールドワークを通じたグループワーク（地域マップの作成）/第9回は地域マップを基に地域の特性、暮らしをまとめて発表する

**問題** 生活文化を踏まえた地域で暮らしを支えていく体制、暮らしを通じた人々との繋

がりの学びの不足

**課題** フィールドワーク 昨年度はフィールドワークを行っておらず、今年度から実施する。(1)地域の探索エリアは学校から 3~5 キロ圏内と設定 (2)インタビューする場所や内容は予めグループワークを通して計画立案する (3)クラス別で午後 2 コマをフィールドワークに配分し行う(構成要素:郷土資料館や観光協へ散策/市町村施設への訪問/計画に沿った人々へのインタビュー)

#### 5. 電子教科書活用について(資料 4)

電子教科書の導入、タブレットの活用など、どのような理由があつて導入をしたかを説明。(社会の変化、教育の変化、医療現場での IT 化、はたらき方改革など)

電子教科書の導入

- ・目的 電子教科書の導入など ICT 活用を行うことにより、教育効果を向上させる
- ・導入内容 タブレットを利用した授業展開。授業資料の共有、電子化、予習・復習の課題提供、演習中の動画撮影、Microsoft 365 education の活用
- ・電子教科書(タブレット活用)のメリット 学びの場を選ばない、重い教科書からの解放、資料の整理が簡単
- ・活用状況について

看護学科

- ・授業中、タブレット利用者だけでなく教科書を活用する学生も見られる。
- ・タブレットを使用することで授業中にネット接続し授業外のことをする学生がいるのではないかと懸念していたが、今のところそのような学生は見られない。
- ・教員が使いこなすまでに時間がかかる。また人によって差がある。
- ・学生からは教科書を持ち歩かなくて良いため、楽だとの声もある。
- ・実際にはまだ配布資料があるため、劇的に資料の配布量が減るかと言ったら今のところそうではない。
- ・現 1 年生に関しては、使いこなしている人は少ないと感じる。今後の入学生の方が高校入学時からタブレット教育の導入がされているので、使いこなす学生が増えていくと考えられる。

助産学科

- ・検索機能が充実していて良い。横断的に検索ができるので、行っている授業以外の分野での検索もでき便利である。(教科書が無くても可能)
- ・動画の共有を行っている。練習風景を撮影し、学生同士ふり返りをしている。
- ・各実習施設でタブレットの使用許可を得ているので、それぞれの場所で学習ができる。
- ・キーボードがないため記録などの文字入力が大変だとの声もある。それらの学生は PC やキーボードを持参して対応している。

2025 年以降、高校 1 年次からタブレット活用をしてきた学生が入学してくるため、教員側も対応できるようにしなくてはならない。

オープンキャンパスでは 1 年生が、参加者に対して電子教科書の使い方や利点(検索機能、ペンシル機能)などを説明していた。

電子教科書だけでなく、Microsoft 365 を利用しての授業展開を進めていく。

フォームスを利用すれば、すぐに結果、正答率が出るため、教員の中にはクイズ形式のミニテストを実施している者もいる。

予習・復習のためにオンデマンド方式を取りたいと考えているが、固定のクラス、学年に公開したいが、全公開になってしまうなど設定が難しい。またストリーミングができると良いと思っている。

## 6. 討議

### 「環境学」「宗教学」について

- ・環境学は2日間しか行わないのか。(大塚学校長)
- ・1日4コマの通しで、集中講義としている。(鵜田副学校長)
- ・講義の評価結果を見ると、難しいという意見が多い。看護と結びつかない内容のためであったのか。(栗田委員)
- ・環境学において、授業が始まったばかりのこの時期に看護の要素が入ったものを到達点とするかどうかという点も考えなければいけない。(関根看護学科教育主任)
- ・授業評価の項目で「講義内容は難しかったか」の「難しい」の反対語は「易しい(簡単)」なのか「分かり易い」なのか。(鵜田副学校長)
- ・地域在宅看護論は「難しかった」が25%である。内容が分かり易かったということなのか。(栗田委員)
- ・地域・在宅看護論は履修内容が自身の身近な「暮らし」であり、知識として入りやすかったのではないかと感じる。それに対して環境学は、興味・関心が薄い中で授業が始まったので難しいと感じたのではないかと感じる。(関根看護学科教育主任)
- ・基礎分野の科目は国家試験に関係するのか。(大塚学校長)
- ・出題(看護師国家試験出題基準に含まれていない)されない。(関根看護学科教育主任)
- ・一般教養科目だと勉強が身近に感じない。さらに環境学は2日で行うとなると余計に難しいのではないかと感じる。講義の内容は講師が決められているのか。また学生の評価・声は講師に届けているのか。(大塚学校長)
- ・講義内容は講師が決められている。また学生から取ったアンケートや評価についてはフィードバックしている。(関根看護学科教育主任)
- ・1年次のこの時期に環境学を既習の知識としてみた場合、何で学ぶのか、環境というのがどのように看護に影響するかなどを捉える視点が不確実な状況では、科目目標の達成は難しいかもしれない。その後の授業・実習において繋がりが見出せるのか。病院の研修でも同様で1年目に行い、2年後に再度研修を行った際、研修報告や事例報告を想起できず、全く覚えていないことが多い。学ぶ段階で結びつきがないと、その後に結びつけられないのではないかと感じる。また宗教に関して日本人は関心が薄いといえる。しかしイスラム教徒の方が入院すると、メッカの方角を気にするということもある。日本の看護の中に浸透していない中で、宗教と看護を結びつけるのは難しい。(安田委員)
- ・病棟では宗教上、食事制限のある方や、医者・看護師など関わるすべてのスタッフが女性でなければならないこともある。実際の体験談があると分かり易いのではないかと感じる。(大塚学校長)
- ・講師は亀田病院でチャプレンをしている方のため、臨床現場でのこともテーマとして授業

に取り入れている。 (関根看護学科教育主任)

- ・生と死に関連すれば、宗教学も印象に残りやすいが、環境学は難しい。 (安田委員)
- ・科目を決めているのは学校なのか？それとも新カリキュラムの中でこの科目をといた指定があるのか。 (大塚学校長)
- ・大卒の柱としての内容はあるが、具体的にこれをやりなさいというわけではない。看護協会では、複雑な背景を持った人がいるので、それを理解、学べるようなカリキュラムにするような考えがある。そのような意見も受けて厚生労働省から大卒は作るが、学校側で地域の特性を生かしてカリキュラムを構成するように言われている。人が暮らしていく上で環境とは切り離すことはできず、また人の生活をみて、人間として捉えていく上で環境と宗教は関わってくるため、カリキュラムに組み込んでいる。しかし実習に行った時どのように結びつけていけるかは難しい課題である。 (鵜田副学校長)
- ・環境学は難しいから、違う科目に変更するということはあるのか。 (大塚学校長)
- ・カリキュラムごとの見直しはゼロではないが、その場合は申請のし直しが必要となる。 (鵜田副学校長)
- ・病院の職員が病院の環境について教えるのはどうか。 (栗田委員)
- ・ナイチンゲールがいうところの環境よりも広い視点の環境を捉え、教えられている。生態系を含めた環境の話が環境学の前提となっている。 (安田委員)
- ・主な履修内容は、人間が人間以外の生物種に与える自然・社会・文化的環境について考えを深めていくことである。 (関根看護学科教育主任)
- ・自分たちが起こした結果が、ブーメランのように自分にかえってくるということ、それがどういうことかを考えなさいということが伝えたいことではないか。 (安田委員)
- ・50年前のように公害や病気と関連があれば分かり易い。 (大塚学校長)
- ・学んだ内容が日々の暮らしにどう影響するかを理解できると良い。(新井看護学科副主任)
- ・アンケート結果をみると、わかっている学生には伝わっているが、理解できない学生の方が多いようである。 (栗田委員)
- ・温暖化など現実的な内容から理解していければ良い。 (関根看護学科教育主任)
- ・環境学において調べ学習等は行っていないのか。 (吉田統括主任)
- ・現行の授業では行っていない。 (関根看護学科教育主任)
- ・環境学そのものの授業に対する限界としての課題がある。もともとの目的・目標があり、人間だけが住んでいるのではなく、共に生きていくと捉えさせて、人との生活と結びつけられると良いと思う。また教員自身も環境学について把握していかないといけない。 (鵜田副学校長)

#### 地域・在宅看護論について

- ・地域・在宅看護論のフィールドワークはこれから実施すると思うが、どのように行う予定なのか。 (安田委員)
- ・事例等を決めて、その内容を組み込んで考えさせていく予定である。 (新井看護学科副主任)
- ・R4年度はコロナのこともあり、地域に出ることができなかった。そのため異なる所に住む教員に話を聞き、その地域を捉えるという内容であった。今年度は学校から3~5キロ圏内に出向いて行う予定である。 (鵜田副学校長)

- ・3キロだと長狭高校あたりまでしか行けず範囲が狭くなってしまう。大山など実際に過疎化が進み、不便な地域に行った方が良いのではという意見もあったが、実施できる範囲を考えると難しい。(新井看護学科副主任)
- ・東京とは違い、お年寄りの方も元気で何でも自分でできる人も多い。問題を見つけるための授業かもしれないが、意外と市や地域の仕組みや補助がしっかりしていることがわかるのではないかと。(栗田委員)
- ・地域に暮らす人々の実際を知ることが、何に繋がるのか。知ることは大事であるし、科目目標も「知る」ことである。フィールドワークをすることは何かというと科目目標の「対話を通して」に繋がっている。行うことで科目目標は達成している。(安田委員)
- ・地域も大切だが、家族との関係性や生活課題をお互いで解決する互助についても考える機会となる。(関根看護学科教育主任)
- ・半日という時間では、鴨川市ってどんなところ、で終わってしまうかもしれない。(新井看護学科教育副主任)
- ・市の活動については年次報告などを見るとわかる。自分たちの生活との違いを見る、知ることになるのではないかと。(安田委員)
- ・行き当たりばったりでは自分たちが思い描いた人に出会えるかわからないので、ある程度事前の設定も必要かと考える。(新井看護学科副主任)
- ・どのような人に聞くのが良いのか。(大塚学校長)
- ・スーパーなどお店に出向いてみると色々な人に会えるのではないかと。(栗田委員)
- ・地域の特徴、特性をつかむアセスメントをして、どのように看護と結びつけるかが大切である。鴨川も地域によって差があるので、外に出向いて地域の特性、特徴を通して暮らしを知る、見る、考えることを行わなければならない。今回、欠席の鈴木部長もとても協力的な方なので、ふれあいセンターなどに出向くことで地域のこと、老人会のこと、互助についても教えていただけたらと思う。(鵜田副学校長)
- ・現在3年次の実習でふれあいセンターなどの施設に行っていると思うが、そこで学ぶ内容とは異なるのか。(吉田統括主任)
- ・生活により密着した内容が学べるのではないかと。(栗田委員)
- ・大学では学生が参加して認知症カフェを開き、地域の方と一緒に予防のための体操や創作活動を行っている。専門学校でも参加してみてもどうか。(安田委員)
- ・フィールドワークに出る際は大枠を決めておいた方がいい。(関根看護学科教育主任)
- ・地域アセスメントをするなら、保健所の方がよくわかると思う。話を聞き授業に結びつけていくと良い。(鵜田副学校長)

#### 電子教科書等について

- ・教科書と電子教科書の併用は金額的にはどうなのか。(安田委員)
- ・本と電子を合わせると本のみ1.2割増しぐらいであり、タブレットは個人購入としている。補助金を利用してタブレットを学生に配布(貸与)することも考えたが、更新や保守、補償、制約などを考えた結果、個人購入とした。(鵜田副学校長)
- ・今後も本と電子を併用のまま行くのか。(安田委員)
- ・双方のメリットがあり、紙で読む方が記憶の定着が強いという結果もある。また便利さで言ったらタブレットである。現状はICT教育に触れていなかった社会人にとってはタブ

